

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	交野市立児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和8年2月24日		～ 令和8年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和8年2月24日		～ 令和8年3月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	令和8年2月24日		～ 令和8年3月23日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月30日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童発達支援事業の利用児や卒園児が訪問支援事業を利用しており、児の集団活動の様子や発達の状況を知った上で、訪問することができている。	・児童発達支援で対応しているノウハウを保育時間や授業時間に直接対応しながら支援方法を伝達したり、当センターで使用していた教材や器具を提示するようにした。 ・訪問支援員ではない、児童発達支援の担任も、可能な時に同行し、顔の見える関係づくりを意識して行った。	・今後は、訪問支援の実際の実施状況を知る職員を増やし、次の担い手となれるように人材の育成につなげていきたい。
2	・園や学校生活における課題や困り感を把握し、児童が過ごしやすいように園や学校、保護者と共通認識のもとで支援が進められるようにしている。	・園や学校の都合に合わせて柔軟に訪問時間を変えている。 ・必要時、保護者と園側と同席の場で児に対する具体的な支援の方法を伝えている。	・利用する児童や保護者のニーズと共に園や学校のニーズも併せてより適切に対応していく。
3	・訪問先の園や学校と情報共有がスムーズに図れている。	・それぞれの園や学校の方針に合わせた対応に努めている。	・実施内容の振り返りと共に、常に利用者側と施設側の立場を考え、寄り添いつつ支援していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保育所等訪問支援事業の回数を増やすことが難しい。	・訪問支援員が児童発達支援や巡回相談事業と兼務のため、実働時間が取りづらい場合がある。また、就労している保護者も多く、家庭訪問時間がなかなか調整がつかない。	・人員調整。 ・訪問支援事業の時間が取れるように業務内容の整理。
2			
3			